2022年1月15日 発行

長野県議会議員

百瀬智之

ももせともゆき

県政報告

Green City No.1

～にぎわいの松本平～

- 1983年2月4日生まれ
- 穂高幼稚園卒園
- 山形小学校卒業
- 鉢盛中学校卒業
- 松本深志高校卒業
- 中学校・高校はサッカー部
- 中央大学法学部法律学科卒業
- 上智大学法科大学院修了
- 元学習塾経営
- 衆議院議員を歴任

Thema.01「公共空間のにぎわいをつくる」

01 「あったらいいな」を形に

「スカイパークにスターバックスがあったらいいのにな！」と思ったことはありませんか？ こちらの写真は埼玉県狭山市の河川敷中央公園で2021年3月にオープンした、スターバックスコーヒーです。私が行ったのは平日の午前中だったので、子連れのお母さん方があちこちでコーヒーを片手に談笑していました。

もちろんコメダ珈琲でも、皆さんのお気に入りのお店でも良いのですが、実は公園という公共の空間で民間企業が営利活動をすることは数年前までは制度的に難しい状況にありました。

02 公園の今日

転機となったのは2017年。都市公園法が改正され、公園利用者の利便性を向上させようという機運が高まります。以来、全国各地の公園でおしゃれなカフェやレストランが誕生し、ところによっては道の駅、保育園、社会福祉施設などもできました。たかが公園、されど公園。

withコロナの時代を迎えた今、公園は屋外であること、自由であることなどを理由に再び注目を集めています。**コロナによって分断されてしまった地域のコミュニティを、公園を核にして取り戻そうという動きも出てきています。**

03 長野県の取組み

こうした機運の高まりとともに、長野県でも担当部署の建設部を中心に公園のあり方が検討されてきました。特に県管理公園である松本平広域公園では2019年秋から市場調査がなされ、どのような施設の導入が適しているか、どの程度の収益性が見込まれるかなどの分析が2021年末まで実施されてきました。

そこで2年にわたる調査期間を経て、そろそろ次のステップに踏み出すべきではないか。私はそのような思いのもとに、県議会一般質問で松本平広域公園の新たな将来像を示すべきであると訴えました。

04 挑戦なくして成功なし

一般質問では残念ながら、建設部から前向きな回答はありませんでした。調査までは実施したものの、民間施設の本格導入は「現時点では難しい」と判断しているようです。しかし公園や河川など、私達住民が足を運びたくなるような空間づくりにおいて、長野県は2歩も3歩も遅れをとっています。**「のびのびとリモートワークできる場所が欲しい」「雨の日にも子どもと気兼ねなく行ける公園が欲しい」**という多くの声を形にするまで、長野県の前向きな取組みと新たな挑戦を求めて参ります。

Thema.02

「市街地のにぎわいをつくる」

01 グリーンインフラの導入とともに

同じく一般質問では、2021年4月に公表された「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」を議題にしました。本県は、山岳や高原、里山などでその美しさや豊かさを実感できる一方、まちなかでは都市化の進展によりみどりが減少する事態となっています。

とりわけ中心市街地は近年、空き地が急速に目立つようになりました。それらはアスファルトの駐車場に姿を変えたりするものの、本来はもっと人が集えるような、地域のにぎわいにつながるような利用方法が期待できたはずです。**グレー色・無機質・味気ない街ではなくて、みどりの潤いとにぎわいのある街へ。長野県の新しいプロジェクトが始まっています。**

02 新たなコミュニティを創造する

この計画の趣旨には「新たなコミュニティの創出」が掲げられています。これから具体的な制度設計をするにあたって、まちかどの空き地や未利用地を、できるだけ地域住民が使いやすい制度にすべきだと私は訴えています。**地域の子どもたちの遊び場として、または社会福祉事業の一環として、あるいは大人たちの新たな集いの場として。利活用を望む住民たちにオープンにし、地域の新たなにぎわいに繋げていく仕組みづくりが重要だと考えています。**

行政や土地所有者が淡々と整備する緑地よりも、そのような活動を通じて住民が主体的に創造した緑地の方が、緑地としての品質が高くなり、アクティビティも多様なものになることが明らかになっています。

Thema.03

「里山のにぎわいをつくる」

01 「タカの渡り」にみる可能性

観光委員会では、松本市奈川地区・白樺峠の「タカの渡り」を議題にしました。「タカの渡り」とは、冬を前にタカの仲間が暖かい南国に旅立つにあたり、上昇気流に乗って峠の空を高く舞い上がる様を指します。それを観測しようと毎秋、多くの人が峠に足を運んでいます。2021年秋の連休最終日には、全国から約2,300人が峠にある観測拠点「たか見の広場」に集まりました。コロナ以前は毎年700万人ものバードウォッチャーが世界を旅していたと言われますが、国内でも実に多くのバードウォッチャーが往来しています。

02 アドベンチャーツーリズム

近年、アドベンチャーツーリズムという観光形態が注目されています。アドベンチャーというとジャングルや洞窟探検など一握りの人が楽しむものが思い浮かびますが、そうではありません。**旅先の自然や文化が持続することを重んじながら、自然や異文化体験、アクティビティを享受する観光形態です。特徴的なのは、旅行者が使ったお金が、自然や文化の保護、旅行先の地域活性化にしっかり還元されることです。**

ある国際機関によると、アドベンチャーツーリズム旅行者の多くは教育水準の高い富裕層であり、例えばクルーズ船の乗客100人が訪問地にもたらす経済的効果を、アドベンチャーツーリズム旅行者はわずか4人で達成するといいます。京都のように足の踏み場もないくらい観光客が押しかけなくても、**自然・文化を大事にしながら経済的恩恵を受けられる政策展開を、信州では実行すべきです。**

03 里山ならではの観光政策を

2021年からアドベンチャーツーリズムの導入に着手した長野県に対して、観光委員会では国際水準のガイド養成施策や、バードフェアの展開などを提案しました。もとより中信地区は白鳥の飛来地であり、最近ではコウノトリやトキも目撃されています。

希少生物が生息できるような生態系の豊かさや環境づくりが、この平では実践されてきました。
そうした取組みが**里山のさらなる保全や発展につながるよう、コロナ後を見据え、今後も様々な角度から提案を続けて参ります。**

百瀬智之は、
環境問題に
積極的に
取り組んで
います！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

発行元：百瀬智之事務所　https://momose-tomoyuki.com　百瀬智之　検索